



創立100周年に向けて
次年度から
**大幅
リニューアル**

瓊浦の制服が変わる。



新

来たるべき創立100周年に向け、瓊浦高校は次年度入学生からの新制服を発表した。男子については、今までの詰襟タイプ（通称学ラン）からブレザータイプへの大幅な変更。女子についても、大きなリボンがアクセントのブレザータイプに変更している。色も従来のダークグレーから大幅に変わり、男女ともにベージュを基調とした落ち着いた色合いに変わっている。今回の変更は、三年後の創立100周年に向けた事業の一環で、次年度の新入生を皮切りに、在籍する全校生徒がこの新制服で100周年を迎えることになる。

制服の変更については、現場の先生方を中心に、多くの時間を掛け、入念に検討がなされた。在校生への調査はもちろん、中学生へのアンケート調査、他校の制服の研究、近年の流行調査など様々な見地から話し合いがなされ、今回の制服変更に行き着いた。

制服検討委員会の一員として携わった大野先生は「特に気を遣ったのは、色合いやシルエツト。膨張色であるベージュを用いているが、スタイルが少しでもきれいに見えるように、女子の上着の丈を短くするなど工夫している。話し合いの中で、先生方の中だけでも様々な意見があり、まとめるのに苦労があった。さらには、生徒との意見の食い違いもあり、制服を変えるというのは、単純なようで、非常に神経を使う難しい仕事だということを改めて痛感した。そんな中でも、県内外問わず、いろいろな学校の制服を研究し、どこまで長崎、瓊浦に取り入れられるのか熟慮を重ねた結果が今回の新制服である。まだまだ細かい部分で改良の余地があるため、来年の四月の導入に向け、調整していきたい。」とこれまでの苦労を語って下さった。苦労の成果もあってか、新制服はデザイン性はもろろんのこと、動きやすさや着心地も改良され、満足のいく出来映えとなっている。

今月の二十六日には市民会館で中学三年生、保護者への学校説明会が予定されており、その中で、この新制服も大々的にPRされることが計画されている。新たな制服で、新たな瓊浦高校のスタート。来年の四月の導入が今から楽しみだ。

令和4年度 2学期行事予定

8月	1日	インターシップ(機)	(～5日)
	9日	登校日(平和教育)	
	16日	インターシップ(機)	(～19日)
9月	1日	体育祭予行	
	2日	体育祭	
	3日	第3回学校説明会	
	5日	振替休日(9月3日)	
	7日	第2回実力考査①②	
	13日	就職出陣式・諸注意③	
	16日	就職1年前集会②	
	23日	就職試験開始	
	23日	第2回学習会(～25日)	
10月	3日	中間考査(～5日)	
	6日	企業見学会(機①)	
	11日	薬物講話	
	13日	球技大会	
	18日	献血	
	19日	献血	
	24日	瓊浦祭特別時間割	(～28日)
	25日	自動車学校入校説明会	
	26日	第16回私学振興大会	
11月	2日	瓊浦祭(～3日)	
	4日	振替休日(瓊浦祭)	
	9日	長崎県NIEフェア	(メルカつきまち)
12月	1日	期末考査(～6日)	
	7日	溶接アモンスターレション	(機②)
	8日	体育祭総合コース成果発表会	
	9日	修学旅行結団式③	
	11日	修学旅行③(～14日)	
	13日	インターシップ(情②)	(～16日)
	20日	県内就職に関する講演	
	21日	2学期終業式	
		冬季練習(～23日)	

瓊浦

第1号

令和4年7月15日発行

瓊浦高等学校

住所 長崎市伊良林
2丁目13番4号

電話 826-1261(代)

FAX 820-5245

熱い闘争と頂点

高体 優勝旗4本奪取

六月四日から十日にかけて、令和四年度第七十四回長崎県高総体が開催された。今年度獲得した優勝旗は四本。見事団体戦九連覇を果たし、圧倒的な強さを見せた男子バドミントン。コロナの影響で、主力選手を欠いた中で男女アベック優勝を成し遂げた空手道。少ない出場人数ながら確実にポイントを稼いだボクシング。昨年度の優勝旗三本を上回る好成績を取め、瓊浦高校の底力を長崎県内に大きく見せつける格好となった。

その他の競技においても、多くの活躍を見せた。優勝こそ逃したものの、安定した戦いぶりで準優勝を果たした男子ハンドボール。二年連続の決勝リーグ進出、ベスト4入賞を果たした男子バスケットボール。卓球部男女はアベックでの決勝進出を果たすなど、各競技会場で好成績を残している。また、剣道部男子は昨年度に引き続きの三位に輝くなど、躍進を果たし、今後の活躍に大いに期待が持てる結果となった。

個人競技においても多くの生徒が大活躍を見せている。水泳、陸上の両競技では多くの選手が上位入賞を果たし、上位大会への出場権を獲得している。陸上部の井口くん(普2D)は、先日行われた県高総体の上位大会である北九州予選会においても、八〇〇メートルで大会新記録を出すなど好走し、一五〇〇メートルとともに二種目でインターハイ出場権を獲得している。

これまで積み上げた優勝旗の本数で最も多い本数となっている。三年後の創立一〇〇周年に向け、ますます勢いを増す瓊浦高校。今後は長崎を飛び越え、九州、全国の舞台で更なる飛躍を見せてくれることを大いに期待したい。

たのみのうら

現在、日本のプロ野球はレギュラーシーズン真っ只中であり、セリーグでは前年度日本一のヤクルトスワローズが二位以下に大差をつけ、首位を独走している。そのスワローズの監督を務めているのは高津臣吾さん。現役時代はスワローズでクローザーとしてプロ野球史に残る活躍を残した人物である。その高津さんが現役時代に、スワローズの監督だったのが故野村克也さん。野村さんは、現役時代は捕手として素晴らしい成績を残したのちも、引退後は監督としてスワローズを日本一に導くなど「ID野球」と呼ばれる名采配で数々の功績を残している。その野村さんが、生前に好きな言葉としてよく語っていたのが、

「財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すを上とする」

というもの。これは、明治から昭和にかけて活躍した政治家で、台湾の近代化に大きく貢献した後藤新平氏の言葉である。お金を稼ぐことは大事だし、後生に残るような仕事をすることは素晴らしい。どちらも一筋縄ではいかない困難なものである。けれども、それ以上に難しく、大切なのは、人を育てること、つまりは「人材の育成」であるというような意味である。この言葉を野村さんは生前から常々口にしており、監督時代には、選手の可能性を見極め、人を育てることに力を注いでいた。優れた成績を取るのには素晴らしいことだ。しかし、成績を残し続けるためには、後に続く人材の育成こそが最も大切だと語った野村さん。その教えを受け継いだ高津選手が、いまや監督となつて素晴らしい戦績を残しているのをどのような心境で見ているのだろうか。

どんな偉大な記録を打ち立てた人物であっても、いずれは引退し、死を迎える。けれども、後に続く人たちがその想いを受け継ぎ、歴史は続いていく。歴史を紡ぐのは「人」であるということ。後進の育成に最も力を注いできた野村さんが、亡くなる直前に指導者講習会において語っていたのは「夢を持って」ということ。「若者に言いたいのは夢を持って、ということ。これだけで十分。人が成長するには、将来こうなりたいという明確な夢を持つことが大切」と語っていた野村さんはいずれは高校野球の指導者になりたいという夢を持っていた。亡くなる直前まで頭の中には「人材育成」のプランがあつたに違いない。果たして、皆さんは今、夢を持っているだろうか。誰かに言われて持つのではなく、自分自身で「将来こうなりたい、こうしたい」という夢を、その夢は死ぬまで叶うことがないのかもしれない。けれども、叶えるために行つた努力は、自分自身を成長させ、その後ろの人生を楽しく、豊かなものにしてくれるに違いない。

令和4年度
長崎県高等学校
総合体育大会

陸上短距離

4×400mリレー

3位賞



「長距離だけ」 言わせない!!



陸上競技の大会において、ほとんどの場合最終日の最終種目に行われるのが、男子四×四〇〇メートルリレー（通称「マイルリレー」）の決勝である。最終種目、しかも学校対抗ということもあり、一番の盛り上がりを見せるのが大きな特徴だ。そのマイルリレーにおいて、瓊浦の選手たちが素晴らしい走りを見せ、見事三位入賞を果たした。

陸上、瓊浦といえば、やはり長距離のイメージが強い。実際に、長距離種目では、多くの選手が過去にも活躍し、駅伝競技では全国大会にも出場を果たしている。今年の高総体においても、長距離勢は各種目で活躍し、ほとんどの出場選手が決勝に残り、好記録を出している。そんな中、近年力をつけてきているのが、短距離ブロックだ。個人四〇〇メートルで四位入賞を果たし、二走を走るエースの山田くん（機2C）を中心に、二〇〇メートルで決勝進出を果たした山崎くん（機2C）。一年生ながら大きなストライドで、好タイムを連発する山下くん（機1B）、そして八〇〇メートル、一五〇〇メートルで全国レベルの走力を持つ井口くんをアンカーに据え、令和四年度県高総体を締めくくる最終種目に挑んだ。

準決勝

決勝でベストタイムを更新し、全体三番目のタイムで進んだ決勝。各人、個人競技の疲れも残る中、今できる最高の走りを見せた。一走の山下くんが粘りの走り、他校と差のない位置でバトンを繋ぐと、二走の山田くんは後半素晴らしい追い上げで、三位まで順位を押し上げる快走。三走の山崎くんも持ち前のスピードを存分に発揮し、アンカーに繋ぐと、井口くんは安定感のある走り、一角を勝ち取る快挙を達成した。

決勝

一六、瓊浦高校史上、最高タイムをたたき出し、堂々の三位入賞。長距離ブロックだけではない、短距離ブロックの底力を県内に知らしめた。二走の山田くんは「今シーズンはこちらまで個人的に上り調子できていたので、個人、リレーともに自己ベストが出せたので良かったと思う。リレーの決勝は、皆の力で良いレースができた。北九州予選では、まだまだ他校との差を思い知らされたので、これからはもっと各自が走力を伸ばし、タイムを伸ばしていきたい」と語ってくれた。今回決勝を走った四人は、いずれも一、二年生。まだまだ伸びしろが大いに期待できる。来年の高総体に向けた戦いはもうスタートしている。更なる短距離ブロックの飛躍に期待している。

イケくん インタビュー

男子バスケットボール部

県高総体で決勝リーグ進出、ベスト4に入賞した男子バスケットボール部。躍進の原動力になったのが、今年度ナイジェリアから留学生として加入したイケくん「本名ムバグウイケチユク フランシス（プーエ）」
本号では、イケくんインタビューを行い、日本の印象や学校の印象、高総体の感想などを語ってもらった。

Q 出身地はどこですか？

A ナイジェリアのイモ州です。

Q 瓊浦高校に来ることになったきっかけは？

A 瓊浦高校は「学ぶ」環境が整っていると思ったからです。この学校で、よりよい教育を受けたと思います。

Q 日本の印象はどうですか？

A 思いやりがあり、平和を愛する人たちが暮らす、美しい国だと思います。

剣道男子

団体

3位

入賞

長崎県高等学校
総合体育大会

更なる高みへ!



剣道部の勢いが止まらない。昨年の県高総体で創部初の男女アベック三に入賞を果たした瓊浦高校剣道部。今年度も、団体戦で自分たちの持てる力を存分に押し切り、見事三位入賞を果たした。

見事三対〇で勝利を収め、準決勝進出を果たした。

準決勝では第一シードの長崎南山高校に一対四で敗れたものの、優勝候補相手に一歩も引かないその戦いぶりは、今後の更なる飛躍を大いに期待させるものであった。個人戦では一人もベスト8に入ることはできず、悔しい結果となったものの、チーム全体で勝ち取った団体戦三位入賞は瓊浦剣道部の実力を県内に轟かせる十分な結果であった。

秋の新人戦でベスト4に入った力は本物だった。第四シードで迎えた本大会、予選リーグ二試合を四対一、五対〇で順調に勝ち進んで迎えた準々決勝。相手は大村高校。新加入したルーキー平尾(普1A)が鮮やかに二本勝ちすると、副将山田(機3A)、大将酒井(普3A)と力のある三年生が続き、

顧問の宮崎先生は、「長崎の剣道競技は全国トップレベル。あと少しの壁は大きいけど、OBや三年生の努力が着実に根付いている。優勝への思いは、確実に継承されていく」と今後の抱負も込めて熱く語ってくれた。次なる目標は更に上。長崎の頂点が見えるところまでやってきた。

顧問の宮崎先生は、「長崎の剣道競技は全国トップレベル。あと少しの壁は大きいけど、OBや三年生の努力が着実に根付いている。優勝への思いは、確実に継承されていく」と今後の抱負も込めて熱く語ってくれた。次なる目標は更に上。長崎の頂点が見えるところまでやってきた。

顧問の宮崎先生は、「長崎の剣道競技は全国トップレベル。あと少しの壁は大きいけど、OBや三年生の努力が着実に根付いている。優勝への思いは、確実に継承されていく」と今後の抱負も込めて熱く語ってくれた。次なる目標は更に上。長崎の頂点が見えるところまでやってきた。

令和4年度
長崎県高等学校総合体育大会

男子ハンドボール部

悔しい敗戦

無念の準優勝

六月六日に行われた県高総体の男子ハンドボール決勝。戦前の予想通りというか、下馬評通りというか、宿敵長崎日大との試合は例年同様手に汗握るような接戦となった。

昨年は新型コロナウイルスの影響で選手と学校関係者を除き、無観客で行われた県高総体。今年はコロナの影響も少しずつ落ち着き、声だし禁止等の条件はあるものの、有観客で行われるようになった。

一回戦、準決勝と危なげなく勝利をおさめ迎えた決勝。相手はライバル長崎日大高校。

序盤から主導権を握り、前半を終えて二点リードの展開。このままいけば目標である「高総体優勝」が成し遂げられる。誰もがそう期待した。運命の後半戦、リードを守る瓊浦、そしてそれを追う日大、

どちらが勝ってもおかしくない状況だった。試合後半、瓊浦のシュートが思うように入らずついに同点に迫りつかれてしまう。その後点を取るも取り返されるという一進一退の攻防を繰り返し、最後の最後、惜しくも二十三対二十四で日大高校に敗れることとなった。

敗れはしたものの、最後の最後まであきらめなかった選手たち。その姿勢は応援に来ていた観客に大きな感動を与えてくれた。試合後、新聞部のインタビュールに対して主将の土岐くん(普3A)は「流れが悪いディフェンスのとき、全員に励ましの言葉をかけ、チーム一丸となって戦えた。全力を出したが、二位という結果でもとても悔しい。」と気持ちを語ってくれた。

残念ながらインターハイ出場という目標は叶えられなかったが、その思いと技を受け継いだ後輩たちが来年こそはリベンジを果たしてくれることだろう。

Q 瓊浦高校の印象は?

A 生徒に良いレベルの教育をしてくれる素晴らしい学校だと思います。

Q 初めての高総体はどうでしたか?

A 自分にとって初めての経験でした。自分の技術を向上させることができたと同時に、改善点も見つけることができました。また、新たな友人もできました。

Q 今後の目標を聞かせてください。

A 将来は、医者かプロバスケ選手になりたいです。もし可能ならば、その両方の夢を叶えたいです。また、困っている人や支援が必要な人たちの手助けをして、より良い社会をつくる一員になりたいです。

慣れない国での生活は、戸惑うことも多いだろう。まだまだ日本語もわからず、コミュニケーションの面でも不安な部分は多いだろうと思われる。そんな中でもいつも笑顔で、何事にも一生懸命なイケくん。クラスには他競技で全国的に活躍する生徒も多く在籍し、彼らから刺激を受けることも多いだろうと思われる。自身の夢を叶えるため、瓊浦高校での三年間を有意義なものにしていてもらいたい。

男子バドミントン

〈団体〉優勝【7年連続35回目の優勝】インターハイ・九州大会出場
 1回戦 ○瓊浦 3-0 佐世保工業× 2回戦 ○瓊浦 3-0 小浜×
 準々決勝 ○瓊浦 3-0 海星× 準決勝 ○瓊浦 3-0 西陵×
 決勝 ○瓊浦 3-0 佐世保実業×

〈個人シングルス〉

優勝 櫻井 煌介 (普3D) インターハイ・九州大会出場
 準優勝 奥野 天斗 (普3D) インターハイ・九州大会出場
 第3位 栗山 寿一 (普3D) 九州大会出場
 第3位 南本 和哉 (普3D) 九州大会出場
 ベスト8 縣 涼介 (普3D)
 ベスト8 林田 真龍 (普2D)
 ベスト8 小野 隆之介 (普2D)

〈個人ダブルス〉

優勝 櫻井 煌介 (普3D)・南本 和哉 (普3D) インターハイ・九州大会出場
 準優勝 奥野 天斗 (普3D)・縣 涼介 (普3D) インターハイ・九州大会出場
 第3位 西村 陽翔 (普3D)・森阪 直弘 (普3D) 九州大会出場
 第3位 林田 真龍 (普2D)・高田 隆誠 (普1E) 九州大会出場
 ベスト8 大石 健慎 (普2D)・中島 天 (普2D)
 ベスト8 川本 諒太 (普2D)・山口 健太郎 (普2D)

空手道 [男子]

〈団体〉優勝【3年ぶり22度目の優勝】インターハイ・九州大会出場
 準決勝 ○瓊浦 3-0 猶興館×
 決勝 ○瓊浦 3-0 長崎日大× [優勝]

〈個人組手〉優勝 村野 颯太 (機3C) インターハイ・九州大会出場
 準優勝 石川 碧汐 (機2C) インターハイ・九州大会出場
 ベスト8 山口 隼生 (普3D) 九州大会出場

空手道 [女子]

〈団体〉優勝【2大会連続17度目の優勝】インターハイ・九州大会出場
 準決勝 ○瓊浦 3-0 猶興館 決勝 ○瓊浦 3-0 長崎日大× [優勝]

〈個人形〉第5位 川下 怜華 (普3B)

〈個人組手〉準優勝 江村 翠琴 (普2A) インターハイ・九州大会出場
 第3位 岩田 小春 (情3A) 九州大会出場
 ベスト8 鈴木 美滯 (情2A) 九州大会出場

ボクシング

〈団体〉優勝【3年ぶり23回目の優勝】

〈個人〉

〈ピン級〉優勝 榊原 士貴 (普2B) 九州大会出場

〈ライトフライ級〉優勝 成瀬 太陽 (普2B) インターハイ・九州大会出場
 第3位 中尾 一気 (普2C)

〈フライ級〉優勝 山下 裕也 (機2C) インターハイ・九州大会出場

〈バンダム級〉第3位 島田 千吏 (機3B)

〈ライト級〉第3位 中本 友雅 (機3B)

男子ハンドボール

準優勝 九州大会出場
 準々決勝 ○瓊浦 44-6 大村× 準決勝 ○瓊浦 30-18 鹿町工業×
 決勝 ×瓊浦 23-24 長崎日大○

卓球 [男子]

〈団体〉準優勝 九州大会出場
 2回戦 ○瓊浦 3-0 佐世保東翔× 3回戦 ○瓊浦 3-0 波佐見×
 準々決勝 ○瓊浦 3-0 口加× 準決勝 ○瓊浦 3-0 鹿町工業×
 決勝 ×瓊浦 1-4 鎮西学院○ [準優勝]

〈個人シングルス〉

ベスト4 辻 悠太 (普3A) インターハイ・九州大会出場
 第5位 趙 禹潼 (普1E) 九州大会出場
 ベスト8 坂本 蓮 (普2D)

〈個人ダブルス〉

第3位 小田原 煌 (普2B)・山崎 慎太郎 (普1D) 九州大会出場
 ベスト8 辻 悠太 (普3A)・田中 諒 (普3D)
 ベスト8 趙 禹潼 (普2D)・堤 奏楽 (普3D)

卓球 [女子]

〈団体〉準優勝 九州大会出場
 2回戦 ○瓊浦 3-0 吉岐× 準々決勝 ○瓊浦 3-0 五島×
 準決勝 ○瓊浦 3-2 長崎女子商業×
 決勝 ×瓊浦 1-4 鎮西学院○ [準優勝]

〈個人シングルス〉第5位 中道 萌花 (普3D) 九州大会出場

〈個人ダブルス〉第3位 中道 萌花 (普3D)・田川 優月 (普3D) 九州大会出場

剣道 [男子]

〈団体〉第3位
 予選リーグ ○瓊浦 4-1 佐世保高専× ○瓊浦 5-0 島原中央×
 決勝トーナメント
 準々決勝 ○瓊浦 3-0 大村× [準決勝進出]
 準決勝 ×瓊浦 1-4 長崎南山○ [第3位]

男子バスケットボール

ベスト4
 2回戦 ○瓊浦 113-52 長崎北× 3回戦 ○瓊浦 122-55 鎮西学院×
 準々決勝 ○瓊浦 61-56 西海学園×
 決勝リーグ ×瓊浦 79-88 長崎工業○ ×瓊浦 70-74 長崎東○
 ×瓊浦 68-94 長崎西○

水泳 [男子]

〈個人〉
 男子 200m バタフライ決勝 8位 鳥越 勇澄 (機1A)
 男子 400m 個人メドレー決勝 4位 野上海斗 (普1D) 九州大会出場
 男子 200m 個人メドレー決勝 2位 野上海斗 (普1D) 九州大会出場
 男子 4×200m フリーリレー決勝 8位 瓊浦 (野上-福井-俣野-壇)

水泳 [女子]

〈団体〉第6位〈個人〉
 女子 50m 自由形決勝 3位 宮野 さくら (情1A) 九州大会出場
 女子 100m 自由形決勝 6位 宮野 さくら (情1A) 九州大会出場
 女子 100m 平泳ぎ決勝 5位 釜田 柚鈴 (情1A) 九州大会出場
 女子 200m 自由形決勝 7位 坂本 琴海 (普3D)
 女子 200m 背泳ぎ決勝 8位 糸山 実優 (普1B)
 女子 200m 平泳ぎ決勝 4位 中道 愛心 (情2A) 九州大会出場
 女子 200m バタフライ決勝 7位 原田 遥奈 (情3A)
 女子 400m 個人メドレー決勝 3位 中道 愛心 (情2A) 九州大会出場
 800m 自由形決勝 8位 城野 未怜 (機1A)
 女子 4×100m フリーリレー決勝
 5位 瓊浦 (松本-宮野-釜田 (情1A)-坂本) 九州大会出場
 女子 4×100m メドレーリレー決勝
 5位 瓊浦 (糸山-中道-松木-宮野) 九州大会出場
 女子 4×200m フリーリレー決勝
 6位 瓊浦 (宮野-中道-釜田-坂本) 九州大会出場

柔道 [男子]

〈団体〉ベスト8
 予選リーグ ×瓊浦 0-2 五島○
 ○瓊浦 4-0 佐世保西×
 ○瓊浦 4-1 鎮西学院× [予選リーグ2位通過]
 準々決勝 ×瓊浦 0-5 長崎日大○ [団体戦ベスト8]

〈個人〉
 〈男子 60kg級〉優勝 平山 楓海 (普3D) 全国大会・九州大会出場権獲得
 〈男子 81kg級〉ベスト8 松田 祐典 (普2C)

女子ハンドボール

ベスト8 準々決勝 ×瓊浦 18-19 長崎商業○

剣道 [女子]

〈団体〉ベスト8 予選リーグ ○瓊浦 5-0 長崎商業×
 ○瓊浦 3-0 吉岐×
 決勝トーナメント ×瓊浦 0-5 西陵○ [ベスト8]